

学力の3要素をどのように評価するのか - プロGRESSシートを用いた評価 -

沼田 卓也、八幡 美保

Evaluation method of three elements of academic ability using progress sheet

Takuya Numata and Miho Yawata

1. はじめに

平成24年8月に取りまとめられた中央教育審議会の答申¹⁾には、学士課程教育の質的転換が喫緊の課題として挙げられた。これを受けて函館短期大学(以下、本学)では教育の質の向上を目指して、これまでに授業アンケート調査、シラバスの充実、キャップ制、ナンバリング、GPA制度、学修ポートフォリオの導入、定期的な全学FD研修会の実施、などの取り組みを行ってきた²⁻⁸⁾。

平成28年3月、高大接続システム改革会議の最終報告⁹⁾が出された。この中で、これから教育改革を進めるにあたって特に重視すべきは、①十分な知識と技能、②それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見出していく思考力・判断力・表現力等の能力、③これらの基になる主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度(①～③を「学力の3要素」と呼ぶ)であるとされた。そこで、本学ではこれを受け、今後、学力の3要素を基盤にし、教育改革を加速していく方針を定めた。まず3つのポリシーの策定と運用に関するガイドライン¹⁰⁾に従って、学力の3要素に基づいたポリシーの見直しを行い、新たな3つのポリシーを設定し、公表した。しかし、学生の学力の3要素を伸ばすためには、その力を正しく評価することが必要不可欠である。これまでに本学で用いていた評価指標では、学生の「人間的な力」や「社会力」を評価することは難しかったため、新たにプロGRESSシートを用いた評価方法を平成29年度より導入することとした。本稿では、その平成29年3月から9月までの取り組みについて報告する。

2. プロGRESSシートの形式

本学で導入したプロGRESSシートを図1、2に示した。食物栄養学科と保育学科では、学生に求められる能力等が異なると考えられるため、まずは両学科で異なる形式のプロGRESSシートを用いることにした。将来的には、両学科の形式の優れた点を取り入れて、統一したものにすることも視野に入れている。

プロGRESSシートで評価する能力は、本学のディプロマ・ポリシー(表1)の4項目目から9項目目に沿ったものにし、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力、社会力の5つの力とした。これらを食物栄養学科では12の要素、保育学科では10の要素に細分し、各要素を学生自身が5段階で自己評価することにした。本学では、各学科ともSL(Sincere Lifeの略)と呼ぶ、10名程度の少人数のクラスに分かれており、各SLには、担当教員がいる。保育学科は、SL担当教員およびSL担当以外の教員も各要素を5段階評価し、学生自身の評価との比較ができるようにした。食物栄養学科は、SL担当教員およびSL担当以外の教員も評価は行いが、学生のように各々の要素について評価するのではなく、別に用意した得点評価指標(図3)を基に、総合的に評価し点数をつけることにした。学生も5段階評価だけでなく得点評価も行い、教員による評価との比較ができるようにした。さらに5段階評価については、レーダーチャートの作成欄も設け、視覚的にわかりやすくする工夫を行っている。評価は両学科とも2年間で5回(入学直後、1年前期終了後、1年後期終了後、2年前期終了後、卒業直前)行い、各結果の推移が確認できるようにした。

評価対象の各要素がどのような能力を指すのか、およびその評価指標については、プロGRESS

DP	該当 DP 項 目番号	要素	適用される場面				自己評価 (点)						
			5 発揮できた	4	3 ふつう	2	1 発揮できなかった	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
								月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	
思考力	4	① 探究する力	常に課題・原因を見つけることができた		なんとなく課題・原因を見つけることができた		何も考えられなかった						
	4	② 解決する力	常に解決の最終的な目標を定め、計画的に取り組むことができた		計画は立てたが、取り組まなかった		計画が立てられなかった						
	5	③ 評価する力	毎回、解決の取り組みを様々な視点で評価できた		身近な人や価値観の近い人からの評価のみであった		主観的な評価のみに留まった						
判断力	5	④ 認識する力	常に社会が自分(卒業生)に求めていることを認識した		なんとなく認識した		何が求められているかわからなかった						
	5	⑤ 観察する力	毎回、実験実習でよく観察し、理解して行動できた		観察したが行動には移せなかった		状況が判断できなかった						
表現力	6	⑥ 創造する力	いつも自らアイデアを出し、作ることができた		アイデアを出したが作ることはできなかった		アイデアを出すことも作ることもできなかった						
	6	⑦ 発信する力	いつも発信物の内容を誰もが理解できるように工夫して製作した		一部の人は理解できる内容であった		発信できる内容ではなかった						
コミュニケーション力	9	⑧ 思いやる力	常に他者の立場を考え、行動した		少し気にして行動した		他者の立場や考えは無視した						
	8	⑨ 協働する力	毎回、グループ内で協力して実験実習を行うことができた		少し協力した		協力できなかった						
社会人力	6, 8	⑩ 向上する力	今期も新たな知識や技術を修得できた		修得しようとしたができなかった		修得しようとしなかった						
	7	⑪ 尊重する力	今期も社会の規則を守る事ができる/ ボランティアに積極的に参加した		だいたい守ることができる/ ボランティアに参加したが機会がなかった		規則を守ろうとしなかった/ ボランティアには興味がない						
	9	⑫ 対応する力	あらゆる場面で臨機応変に対応できた		少しできた		対応できず、文句を言った						



図1. プロGRESSシート (食物栄養学科)

A

5つの力	DP	要素	定義	達成できた 5	4	ある程度達成できた 3	2	達成できなかった 1
思考力	DP4 ①	論理性	筋道を立てて、持続的に考え抜く力	物事を筋道を立てて考え、課題に対して一貫性をもって考え抜くことができた。		自分の感情や周囲の意見に惑わされず、筋道を立てて考えることを心がけた。		物事を筋道を立てて考えることができなかった。
	DP5 ②	洞察力	物事を深く観察し、何が重要かを見抜く力	保育に関わる様々な事象を注意深く観察し、その原因や解決方法を見つけることができた。		保育に関わる様々な事象を注意深く観察し、その内面を理解しようとした。		物事を表面的にしか見ることができず、内面まで理解しようとしなかった。
判断力	DP5 ③	選択力	そのものと他のものをはっきり見極め、選びとる力	物事の違いを理解し、何が適切か優先順位をつけて選択することができた。		ある程度の物事の違いを理解し、何が適切か優先順位をつけて選択することを心がけた。		自分が何をすればよいか分からず、何が適切かを選びとることができなかった。
	DP4 ④	計画力	考えたことを実行するために、優先順位をつけて取り組もうとする力	多くの課題が重なっても、優先順位をつけて計画を立て、手を抜くことなく全力で取り組んだ。		期日に間に合うよう見直しを立てたが、締切間際の完成となった。		綿密な計画を立てることが苦手で、誰かの意見を参考にしたり、その場しのぎの思いつきで行動することが多かった。
表現力	DP6 ⑤	吸収力	自己を取り巻く他者や物事に心動かされ、そこから多くのものを得ようとする力	ボランティアや学校行事、読書や観劇など、人や事象に積極的に関わり、多くの感動や知識を得ることができた。		他者との関わりや様々な経験から多くのことを学び自分の生活に生かそうとした。		自ら環境に関わり自分の知識や経験を増やすことをほとんどしなかった。
	DP6 ⑥	自己表現力	自分の思いや考えを適切な方法で、美しく、わかりやすく伝えようとする力	多様な人へ熱意を持ってわかりやすく美しい方法で発信を行い、共感を得ることができた。		どうしたら相手に伝わるか相手の立場になって考え、表現方法を工夫した。		表現したいことがまとまらず、他者に伝えることがほとんど無かった。あるいは考えがあっても、他者に伝え理解してもらおうとしなかった。
コミュニケーション力	DP8,9 ⑦	受容力	自他の違いを乗り越えて、相手の思いに寄り添おうとする力	異なる意見や存在を尊重し、自分や集団の向上の必要性を考えて異なる意見を受け入れることができた。		集団や他者に対して思いやりを持って行動し、他者を受け入れようとした。		自分の思いや考えを優先し、他者の思いに寄り添うことができなかった。
	DP8,9 ⑧	柔軟性	自己と他者の両者を尊重し、意見の違いや立場の違いを理解しようとする力	自分の意見を主張しつつも、異なる意見を受け入れ、目的に向かって他者と協働し、より良い結論を導くことができた。		一人ひとりの意見を生かす方法を考え、折り合いをつけ物事に対応することを心がけた。		グループワーク等で議論するとき反対意見を言われるのが苦手で、自分の意見を強引に通すことが多かった。
社会人力	DP8 ⑨	チームワーク	目標に向かって、他者と共に、取り組もうとする力	集団の中で他者の良さに共感し、新たなものを取り入れながら、共通の目標に向かって活動することができた。		メンバーと協力することに重点を置き、自分のすべきことを理解した上で、他者と共に取り組むことを心がけた。		目標に到達する意識が低く、他の人に任せて逃げたりすることが多かった。
	DP7 ⑩	行動力	保育者を目指す者として高い倫理観を持って自分から積極的に行動に移そうとする力	保育者に求められる責任を理解し、仲間と共に大きな目標を達成することができた。		状況を的確に判断し、何をすべきか自ら考え行動するよう心がけた。		自分から行動できず、いつも指示されて行動することが多かった。

B

5つの力	DP	要素	定義	到達点	自己評価	5	4	3	2	1
					第1回	第2回	第3回			
思考力	DP4 ①	論理性	筋道を立てて、持続的に考え抜く力	論理に矛盾や飛躍がなく、一貫性がある	第1回					
	DP5 ②	洞察力	物事を深く観察し、何が重要かを見抜く力	大切な概念やキーワードを見出すことができる	第1回					
判断力	DP5 ③	選択力	そのものと他のものをはっきり見極め、選びとる力	共通する点と違う点を整理し、その上でどちらがより適切かを考慮し、選択することができる	第1回					
	DP4 ④	計画力	考えたことを実行するために、優先順位をつけて取り組もうとする力	その作業にどれ位の時間が必要かを見積もることができ、締切に間に合うように、課題の順番をつけることができる	第1回					
表現力	DP6 ⑤	吸収力	自己を取り巻く他者や物事に心動かされ、そこから多くのものを得ようとする力	自分から環境に働きかけ、素直な気持ちでそのものの美しさに触れ、多くのものを得ることができる	第1回					
	DP6 ⑥	自己表現力	自分の思いや考えを適切な方法で、美しく、わかりやすく伝えようとする力	自分の表現を他者にわかりやすく、豊かに表現することができる	第1回					
コミュニケーション力	DP8,9 ⑦	受容力	自他の違いを乗り越えて、相手の思いに寄り添おうとする力	相手は何を求めているのかを推測し、他者の願いや思いをしっかりと受け止めることができる	第1回					
	DP8,9 ⑧	柔軟性	自己と他者の両者を尊重し、意見の違いや立場の違いを理解しようとする力	個人的な好みや価値観を客観化し、より高い視点から意味づけすることができる	第1回					
社会人力	DP8 ⑨	チームワーク	目標に向かって、他者と共に、取り組もうとする力	タイミングよく報告・連絡・相談を行い、他者のやる気も引き出すことができる	第1回					
	DP7 ⑩	行動力	保育者を目指す者として高い倫理観を持って、自分から積極的に行動に移そうとする力	保育者に求められる責任を理解し、仲間に働きかけてより大きな目標を達成することができる	第1回					

C

5つの力	DP	要素	定義	到達点	S1担当 評価					S4担当 以外の 教員評価						
					5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
思考力	DP4	① 論理性	筋道を立てて、 持続的に考え抜く力	論理に矛盾や飛躍がなく、 一貫性がある	第1回						第1回					
					第2回						第2回					
					第3回						第3回					
判断力	DP5	③ 選択力	そのものと他のものをはっきり 見極め、選ぶ力	共通する点と違う点を整理し、 その上でどちらがより適切かを考慮し、 選択することができる	第1回						第1回					
					第2回						第2回					
					第3回						第3回					
表現力	DP6	⑤ 吸収力	自己を取り巻く他者や物事に 心動かされ、そこから多くの ものを得ようとする力	自分から環境に働きかけ、 素直な気持ちでそのもの美しさに 触れ、多くのものを得ることができる	第1回						第1回					
					第2回						第2回					
					第3回						第3回					
コミュニケーション力	DP8,9	⑦ 受容力	自他の違いを乗り越えて、 相手の思いに 寄り添おうとする力	相手は何を求めているのかを推測し、 他者の願いや思いをしっかりと 受け止めることができる	第1回						第1回					
					第2回						第2回					
					第3回						第3回					
社会人力	DP8	⑨ チームワーク	目標に向かって、他者と共に、 取り組もうとする力	タイミングよく 報告・連絡・相談を行い、 他者のやる気も引き出すことができる	第1回						第1回					
					第2回						第2回					
					第3回						第3回					
社会人力	DP7	⑩ 行動力	保育者を目指す者として 高い倫理観を持って、 自分から積極的に 行動に移そうとする力	保育者に求められる責任を理解し、 仲間働きかけにより大きい目標を 達成することができる	第1回						第1回					
					第2回						第2回					
					第3回						第3回					

図2. プロGRESSシート (保育学科) A: 評価指標、B: 学生評価記入欄、C: 教員評価記入欄

表1. 函館短期大学のディプロマ・ポリシー (平成29年度4月公表版)

食物栄養学科	保育学科
食物栄養学科の教育目標を達成し、卒業認定に必要な所定の単位を修得して、以下の資質と能力を持つ者に短期大学士(食物栄養学)を授与する。	保育学科の教育目標を達成し、卒業認定に必要な所定の単位を修得して、以下の資質と能力を持つ者に短期大学士(保育学)を授与する。
[知識・技能] 1. 食と栄養並びに健康に必要な専門的知識と技術を有し、人の健康増進を促すことができる。 2. ライフステージの特性を把握し、栄養管理に反映させることができる。 3. 食を通して、地域福祉に即戦力として貢献することができる。	[知識・技能] 1. 保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を有し、子供の成長を促す保育を展開できる。 2. 地域の特性を適切に把握し、保育に反映させることができる。 3. 保育者の社会的使命を理解することができる。
[思考力・判断力・表現力] 4. 生活環境や食文化を深く分析して、課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考え、答えを導き出す能力を身に付けている。 5. 身に付けた知識と技能を生かし、物事を的確に認識して評価できる能力を身に付けている。 6. 生涯にわたって学び続け、身に付けた知識や技能及び経験を創造力を持って分かりやすく他者に伝えることができる。	[思考力・判断力・表現力] 4. 子育て環境を深く分析し、課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考え、答えを導き出す能力を身に付けている。 5. 身に付けた知識と技能を生かし、物事を的確に認識して評価できる能力を身に付けている。 6. 生涯にわたって学び続け、身に付けた知識や技能並びに経験を分かりやすく他者に伝えることができる。
[コミュニケーション力・社会人力] 7. 専門職業人としての高い倫理観を保持し、社会に貢献しようとする事ができる。 8. コミュニケーション力を身に付け、他者と協働して課題を解決しようとする事ができる。 9. 他者への思いやりと柔軟な対応力を持つことができる。	[コミュニケーション力・社会人力] 7. 専門職業人としての高い倫理観を保持し、社会に貢献しようとする事ができる。 8. コミュニケーション力を身に付け、他者と協働して課題を解決しようとする事ができる。 9. 他者への思いやりと柔軟な対応力を持つことができる。

	総合	思考力	判断力	表現力	コミュニケーション力	社会力
100	全ての項目で5点に相当する最高水準の能力を有し、あらゆる場面で人間力を発揮できる。	課題・原因を見つけることができ、それらを常に解決することができる。	常に状況をよく観察し、自分が求められていることを全て理解することができる、行動できる。	常にアイデアを積極的に出し、内容を分かりやすく伝えることができる。	常に他者の考えを尊重し、協力して仕事ができる。	いつも積極的にボランティアなどに参加し、様々な場面で臨機応変に対応できる。
80	全ての項目で4~5点に相当する高水準の能力を有し、多くの場面で人間力を発揮できる。	課題・原因を見つけることができ、その多くを解決することができた。	状況をよく観察し、自分が求められていることを理解できるが、行動できないこともある。	アイデアをよく出すことができるが、内容が伝わりにくいことがある。	他者の考えを尊重し、協力して仕事を行うことが多い。	時よりボランティアなどに参加し、様々な場面で臨機応変に対応できることが多い。
60	ほとんどの項目で3~4点に相当する水準の能力を有し、必要とされる場面で人間力を発揮できる。	課題を見つけられないことがあり、見つけた課題の多くを解決することができる。	状況を観察し、自分が求められていることを少し理解できるが、行動に移せないことが多い。	アイデアを出しても、あまり内容が伝わらないことが多い。	他者の考えをある程度尊重し、協力して仕事を行う。	ボランティアなどに参加しても、臨機応変に対応できることが少ない。
40	ほとんどの項目で2~3点に相当する水準の能力を有し、限られた範囲において人間力を発揮できる。	課題を見つけられないことが多く、見つけた課題を解決できないことが多い。	状況を観察しても、自分が求められていることが理解できないことがある。	アイデアをあまり出さず、内容が伝わらないことが多い。	他者の考えを無視して、うまく協力できないことがある。	あまりボランティアなどには、参加せず、限られた範囲でしか臨機応変には対応できない。
20	ほとんどの項目で1~2点に相当する水準の能力を有し、人間力を発揮する努力が他者に伝わらない。	課題・原因を見つけられない。	状況がよく観察できず、自分が求められていることが全く理解できないことが多い。	アイデアを出すことがほとんどなく、分かりやすく伝えることができない。	他者の考えを無視して、協力できないことが多い。	ボランティアなどには、ほとんど参加せず、臨機応変に対応できない。

図3. 得点評価指標（食物栄養学科）

今までの経験（生活面や学習面等）から、具体例を思いだし、記入してください。思い当たることがなければ空欄のままでよいです。	
①	例) () (英語の試験) ができなかった時、原因となる (英単語の暗記不足) を見つけることができた。 () ができなかった時、原因となる () を見つけることができた。 () ができなかった時、原因となる () を見つけることができた。 () ができなかった時、原因となる () を見つけることができた。
②	例) 原因となる (英単語の暗記不足) を、次のような順序で解決した。(1) 単語集を購入 (2) 同じ意味の単語を探した (3) 何回も書いた 原因となる () を、次のような順序で解決した。(1) (2) (3) 原因となる () を、次のような順序で解決した。(1) (2) (3) 原因となる () を、次のような順序で解決した。(1) (2) (3)
③	例) 原因となる (英単語の暗記不足) を解決する段階で、(受験する自分/ 留学する自分) の視点から振り返って考えた。 原因となる () を解決する段階で、() の視点から振り返って考えた。 原因となる () を解決する段階で、() の視点から振り返って考えた。 原因となる () を解決する段階で、() の視点から振り返って考えた。
④	例) 自分に求められていることは (積極的に生徒会のサポートをすること/ 割合の計算ができるようになること) だと認識した。 自分に求められていることは () だと認識した。 自分に求められていることは () だと認識した。 自分に求められていることは () だと認識した。
⑤	例) (白玉団子をゆでること) を観察し、(浮き上がってきた) 時に (引き上げ、水に浸すこと) をした。 () を観察し、() 時に () をした。 () を観察し、() 時に () をした。 () を観察し、() 時に () をした。
⑥	例) 自分のアイデアである (苦手な野菜をおいしく食べられる料理) を (野菜たっぷりケーキ) という製作物にした。 自分のアイデアである () を () という製作物にした。 自分のアイデアである () を () という製作物にした。 自分のアイデアである () を () という製作物にした。
⑦	例) (野菜たっぷりケーキ) という製作物を (野菜だとわらなくして、見た目の彩りよくするため) の工夫をして他者に披露した。 () という製作物を () の工夫をして他者に披露した。 () という製作物を () の工夫をして他者に披露した。 () という製作物を () の工夫をして他者に披露した。
⑧	例) 他者の (楽しめること) を考え、(誕生日会の企画と準備) をした。 他者の () を考え、() をした。 他者の () を考え、() をした。 他者の () を考え、() をした。
⑨	例) (前もって実験のテキストを読むこと) を行うことで、他者と協力して行動できた。 () を行うことで、他者と協力して行動できた。 () を行うことで、他者と協力して行動できた。 () を行うことで、他者と協力して行動できた。
⑩	例) 私が新しく修得したいことは、(フランス語/ 責任をもって行動すること) である。 私が新しく修得したいことは、() である。 私が新しく修得したいことは、() である。 私が新しく修得したいことは、() である。
⑪	例) 私が尊重することは、(家族と過ごす時間/ 自分の時間を大切にすること/ 学内のゴミ拾い) である。 私が尊重することは、() である。 私が尊重することは、() である。 私が尊重することは、() である。
⑫	例) 私が他者との関係で心掛けていることは、(他者の意見を聞くこと/ なるべく悪口を言わないこと) である。 私が他者との関係で心掛けていることは、() である。 私が他者との関係で心掛けていることは、() である。 私が他者との関係で心掛けていることは、() である。

図4. スタートアップシート（食物栄養学科）

シートに記載しているが、学生には理解しにくいと考えられた。そのため、両学科とも初回の評価時には、教員が詳細な説明を行った。さらに食物栄養学科では、スタートアップシート（図4）を学生に作成させる工夫を行った。スタートアップシートは、各要素の具体例を文章の穴埋めにより作成できるようになっている。このシートの作成作業をプログレスシートによる評価に先立って行うことにより、各要素に対する理解が深まり、評価が行いやすくなると考えられた。また2回目以降の評価時にも、事前にスタートアップシートと同様の形式のグロスステージシート（各要素について具体例を1つ記入させる形式）を作成させ、評価を行いやすいようにした。

3. 評価結果

3-1. 学生による各要素の評価結果

両学科の1、2年次生の1回目（平成29年4月実施）の学生自身による各要素の評価結果を表2、3および図5に示す。

食物栄養学科では、両学年とも各要素の平均値は2点前後であった。両学年ともに、評価が高かつ

たのは、社会人力の要素である「向上する力」、「尊重する力」、「対応する力」であった。評価が低かったのは、表現力の要素である「創造する力」、「発信する力」であった。1、2年次生を比較すると大きな違いは見られないが、やや2年次生の方が全体的に評価は高かった。

保育学科では、両学年とも各要素の平均は食物栄養学科よりも高く、3点前後であった。両学年ともに、評価が高かったのは、判断力の要素である「計画力」、表現力の要素である「吸収力」、コミュニケーション力の要素である「受容力」であった。評価が低かったのは、思考力の要素である「創造する力」、「発信する力」であった。1、2年次生を比較すると大きな違いは見られないが、食物栄養学科と異なり、やや1年次生の方が全体的に評価は高かった。この違いは、保育学科では、1年次後期にすでに校外実習が行われることにより、2年次生は、その経験から、自身の力について入学時よりも厳しく評価しているためと考えられる。

次に、2年次生の1回目と2回目（平成29年7月実施）の評価結果を表4、5および図6に示す。

食物栄養学科では、すべての要素の平均値が1回目よりも高くなっていた。プログレスシートの各要素を意識しながら行動し、成長を実感していることがうかがえる。しかし、多くの要素が約3.3点であったが、「評価する力」、「創造する力」、「発

表2. 食物栄養学科における初回の各要素の平均評点

DP	要素	平均評点	
		1年次生	2年次生
思考力	①探究する力	1.80	2.08
	②解決する力	1.74	2.14
	③評価する力	1.74	2.07
判断力	④認識する力	1.98	2.23
	⑤観察する力	1.51	1.70
表現力	⑥創造する力	1.35	1.52
	⑦発信する力	1.37	1.46
コミュニケーション力	⑧思いやる力	1.73	2.03
	⑨協働する力	1.66	1.99
社会人力	⑩向上する力	2.18	2.27
	⑪尊重する力	2.19	2.24
	⑫対応する力	2.39	2.34

表3. 保育学科における初回の各要素の平均評点

DP	要素	平均評点	
		1年次生	2年次生
思考力	①論理性	2.85	2.74
	②洞察力	2.67	2.81
判断力	③選択力	3.23	2.97
	④計画力	3.19	3.27
表現力	⑤吸収力	3.58	3.21
	⑥自己表現力	2.92	2.80
コミュニケーション力	⑦受容力	3.62	3.14
	⑧柔軟性	3.10	3.00
社会人力	⑨チームワーク	3.27	2.99
	⑩行動力	2.96	2.76

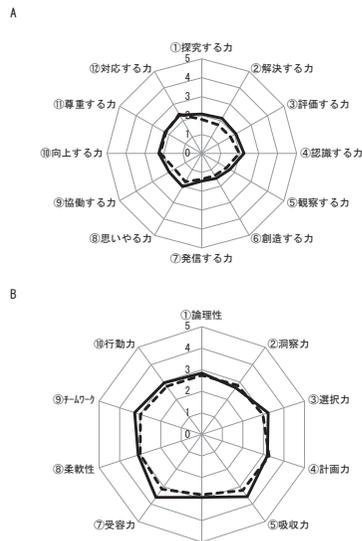


図5. 1回目の各要素の平均点

A : 食物栄養学科、B : 保育学科、実線：2年次生、破線：1年次生

信する力」の3つの要素は、他の要素よりも低い点数であった。特に「創造する力」、「発信する力」は、1回目に引き続いて他の要素よりも評価

が低く、食物栄養学科の学生たちは、表現力が低いと自己評価していることが分かる。

保育学科においても、食物栄養学科と同様に、すべての要素の平均値が、1回目よりも高くなっていった。また平均が全ての要素について3.5点前後となり、1回目の評価とは異なり、特に高いまたは低い評価をしている要素はないことが分かった。1回目の評価を基に、各自が「創造する力」、「発信する力」を伸ばすことに特に力を入れた結果とも考えられる。

表4. 食物栄養学科2年次生の各要素の平均評点

DP	要素	平均評点	
		1回目	2回目
思考力	①探究する力	2.08	3.41
	②解決する力	2.14	3.30
	③評価する力	2.07	2.92
判断力	④認識する力	2.23	3.32
	⑤観察する力	1.70	3.39
表現力	⑥創造する力	1.52	3.06
	⑦発信する力	1.46	2.67
コミュニケーション力	⑧思いやる力	2.03	3.47
	⑨協働する力	1.99	3.53
社会人力	⑩向上する力	2.27	3.39
	⑪尊重する力	2.24	3.32
	⑫対応する力	2.34	3.41

表5. 保育学科2年次生の各要素の平均評点

DP	要素	平均評点	
		1回目	2回目
思考力	①論理性	2.74	3.41
	②洞察力	2.81	3.56
判断力	③選択力	2.97	3.53
	④計画力	3.27	3.71
表現力	⑤吸収力	3.21	3.62
	⑥自己表現力	2.80	3.49
コミュニケーション力	⑦受容力	3.14	3.63
	⑧柔軟性	3.00	3.57
社会人力	⑨チームワーク	2.99	3.62
	⑩行動力	2.76	3.59

3-2. 学生自身と教員の評価の比較

食物栄養学科では、学生と教員の両方が、得点評価指標を用いて、総合的な評価も行っている。そこで2年次生の得点評価について、学生と教員間の相違や類似性を比較検討した。得点評価の平均値を表6に、得点分布を図7、8に示す。

表6. 得点評価における平均点 (食物栄養学科)

評価者	平均評価点数	
	1回目	2回目
学生本人	31.4	51.7
SL担当教員	37.7	50.9
SL担当以外の教員	38.0	51.4

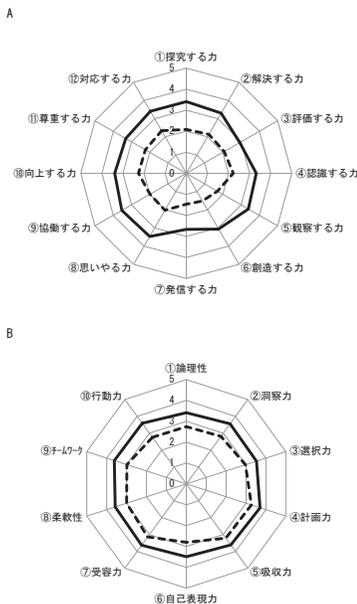


図6. 2年次生の各要素の平均点

A：食物栄養学科、B：保育学科、実線：2回目、破線：1回目

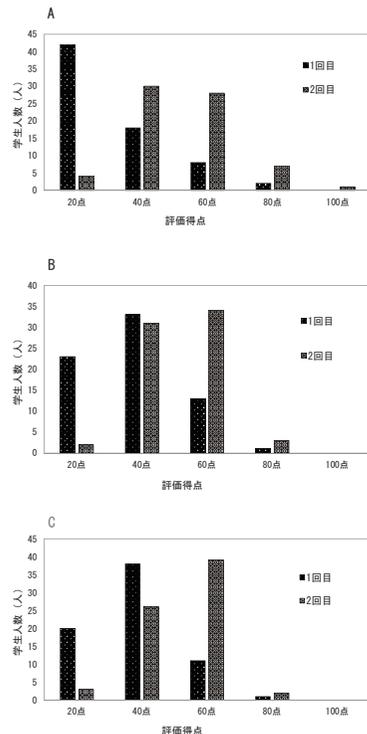


図7. 評価者別の得点分布 (食物栄養学科)

A：学生本人、B：SL担当教員、C：SL担当以外の教員

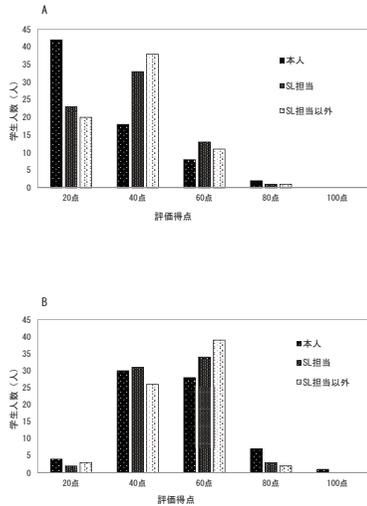


図8. 評価時期別の得点分布 (食物栄養学科)

A: 1回目, B: 2回目

学生の評価は、1回目より2回目では平均点で約20点増加した。また1回目に20点と自己評価した学生が約60%であったが、2回目になると10%以下に減少し、40点と60点の評価が約80%を占めた。このように、各要素の評価と同様に2回目の評価が高くなっていた。

SL担当およびSL担当以外の教員の評価は、平均点では、2回目の評価は1回目よりも両者で約13点増加した。得点分布では、2回目になると、20点が減少し、40点と60点と評価された学生は約90%に達した。学生と同様に2回目の評価が高くなっていることが分かる。

学生と教員の評価を比較すると、平均点は、1回目は学生と教員間に相違があり、学生よりも教員の方が高かった。得点分布をみると20点と記入した学生は全体の約80%であったが、教員の評価では40点と評価された学生が最も多かった。2回目の評価の平均点は、学生と教員間の評価に差がみられなかった。得点分布においても2回目では、学生と教員間での評価はほぼ同様で、学生は40点または60点と自己評価し、また教員からもそのように評価を受けた。

教員間での評価を比較すると、差はあまりみられないが、SL担当以外の教員はやや高めに評価する傾向がみられた。

以上の結果から、1回目の評価は、学生の方がやや厳しく評価していることが分かる。これは、

学生がこの評価方法に慣れていないことも影響していると考えられる。2回目では、学生と教員の評価は同等になっている。また、学生・教員共に1回目より2回目が高評価であった。学生自身においては、各要素の評価と同様に、プログレスシートの各要素を意識しながら行動したことで成長し、高評価につながったと考えられる。また、2回目に教員が学生を高く評価したのは、教員の得点指標記入時期が8月から9月にかけての、校外実習や課外活動が行われる時期の前後で、学生の努力や成長を読み取ることができたためと考えられる。

教員間での評価は、SL担当とSL担当以外では差がなく、両者が同じ基準で正しく評価した結果ともいえるが、SL担当以外の教員がSL担当教員の点数を参考に、評価している可能性も考えられる。得点評価指標に関して、他者の評価に影響される可能性を考慮し、評価方法を工夫する必要があるかもしれない。

4. 学力の3要素の可視化

本学では、今後、学力の3要素を基盤にして教育改革を進めていく方針である。そのためには、これまでに導入した学修ポートフォリオや、平成29年度より新しく導入したプログレスシートのデータを用いて、学力の3要素を可視化していくことが必要となる。例えば、以下のように可視化することができる。

「知識、技能」の部分については、fGPAの値^{4.5)}で示す。「思考力・判断力・表現力」の部分(これをCR: creative skillsと呼ぶ)については、プログレスシートの該当部分(食物栄養学科: ①~⑦の要素、保育学科: ①~⑥の要素)の平均値で示す。そして、「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」の部分(これをSO: social skillsと呼ぶ)は、プログレスシートのコミュニケーション力および社会力の部分(食物栄養学科: ⑧~⑫の要素、保育学科: ⑦~⑩の要素)の平均値で示す。この3つの値を、fGPAは4.5、CRとSOは5を100%としたときの値に直し、レーダーチャートの形式で1つにまとめて表す。食物栄養学科のある学生の例を図9に示す。しかし、これは1つの例であり、どのような形式で学力の3要素を可視化するかは、これからの課題である。

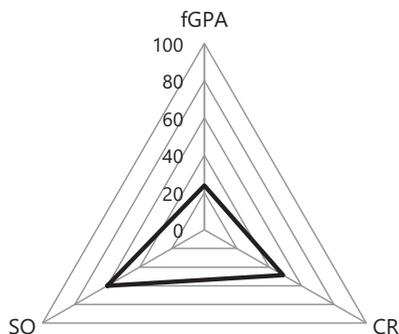


図9. 学力の3要素を可視化した例
食物栄養学科のある学生のデータ

将来的には、学力の3要素を可視化したものを、「ディプロマサプリメント」として、企業等に提供し、本学の教育の質保証としていくことを考えている。このためには、学力の3要素を厳格に(公正に)評価していくことが大きな課題であり、プログレスシートの内容・評価方法の改善や、教員が学生の学力の3要素を伸ばしていくことを意識した教育を行っていくこと等が必要である。

5. まとめ

本学が導入したプログレスシートによる評価について、以下のようにまとめられる。

1. 学生自身の評価は、両学科ともに1回目よりも2回目の方が高くなった。
2. 食物栄養学科では、教員の評価も、学生自身の評価と同様に1回目よりも2回目の方が高くなった。
3. 食物栄養学科では、学生と教員の評価は、1回目は差があったが、2回目では同様の評価結果になった。
4. 食物栄養学科では、SL担当と担当以外の教員とでは評価に差がなかった。
5. fGPAの値やプログレスシートの評価結果等を用いて、学力の3要素を可視化し、本学の教育の質保証とする。

今後、本学は、学力の3要素を基盤にした教育を行っていくが、その質保証を達成するためには、プログレスシートによる評価方法や教育内容の改善に取り組み、評価を厳格化(公正化)していくことが必要である。

参考文献

- 1) 文部科学省. 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～ (答申), 2012
- 2) 猪上徳雄, 庭亜子. アンケート調査活用とFD・SDで課題を探る～学修成果の向上と教育改善. 函館短期大学紀要 39; 1-16, 2013
- 3) 猪上徳雄, 庭亜子. 食物栄養学科の現状と展望 - 「授業に関するアンケート調査」および成績評価から -. 函館短期大学紀要 40; 57-62, 2014
- 4) 猪上徳雄. 函館短期大学におけるGPA制度の導入と成績評価. 函館短期大学紀要 41; 61-68, 2015
- 5) 猪上徳雄, 能城ひろみ. 機能するGPA (fGPA) 算出プログラムの作成とその活用. 函館短期大学紀要 41; 69-74, 2015
- 6) 沼田卓也. 函館短期大学生の学修時間. 函館短期大学紀要 41; 83-87, 2015
- 7) 沼田卓也. 函館短期大学の教育改革の進行状況. 函館短期大学紀要 42; 31-37, 2016
- 8) 沼田卓也. 函館短期大学の教育改革の現状と課題. 函館短期大学紀要 43; 81-87, 2017
- 9) 文部科学省. 高大接続システム改革会議「最終報告」, 2016
- 10) 文部科学省. 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー), 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー) 及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー) の策定及び運用に関するガイドライン, 2016